LIBRARY NEWS

（図書室だより）

令和５年６月23日 №3
新座市立第三中学校
校 長　　石田　和男
図書整理員　名本 浩子

じめじめした、うっとうしい梅雨の合間の晴れた日は、日の光が全身に染みてくるようで ありがたく、気持ちまで明るくなります。しっとりと雨にぬれた木々の葉のつややかさが“あわれ”なら、日光を浴びてキラキラと輝く様は“をかし”でしょうか。どちらもそれぞれの良さがありますね。

先日、黒目川沿いに、紫陽花が色とりどりに咲いているのを見つけました。いつも、手前の川沿いに咲く桜やツツジの美しさにばかり目を奪われていたのですが、対岸の川沿いには、紫陽花も植えられていたのかと今さらながら気づいたのでした。１年生の国語の教科書にもありますが、「ちょっと立ち止まって」視点を変えて見てみると、ふだん気づかないことに気づいたり、いろいろなものが見えたりするものだと思いました。

そんなことを思っていたら、「梅雨」は、なぜ「梅の雨」なのかという疑問が わいてきました。調べてみると、諸説ありますが、この漢字は中国から伝わり、やはり、漢字が示すように、中国で、梅の実が熟す時期と重なることから梅の字になったという説が有力なようです。もともと、梅の字ではなく、じめじめしてカビが生えやすい季節であることから、「黴（かび）」の字を当てていたという説もあります。しかし、「かび」の字がわかりにくいため、「梅」の字に変わったと考えられています。

もう一つ、気になることがあります。「梅雨前線」では、「梅雨」を音読みの「バイウ」と読むのに、単独では「つゆ」と読みます。これも諸説あって、「露にぬれて湿っぽい」を表す古語の『露けし』から転じたという説や、この時期は梅の実が潰れる時期で、潰れることを「潰（つい）える」と表現することから転じて、『潰ゆ（つゆ）』と呼ぶようになったという説もありました。疑問を解決すると すっきりした気分になります。

そこで、今回は、“雨”がタイトルに入った、相沢沙呼の『雨の降る日は学校に行かない』からの出題です。「女子たちの恋愛トークについていけない」「毎日、手帳に架空の遺書を書いている」「イケてるグループと そうでないわたし。スカートの丈が違うだけで、どうしてこんなにも違うのだろう」教室にうまく馴染めなくて、居場所を見つけられなくて、息苦しさを感じている中学生の少女たちが、それぞれにとってのかすかな希望を探していく物語です。６つの短編で構成され、彼女たちの何気ない日常がていねいに描かれています。その１話目は、保健室登校している二人の少女、ナツとサエの話。保健室は、二人にとって、ささやかな楽園のはずだった。しかし、サエが突然、「自分のクラスに戻る」と言い出した。素直に喜べないナツ。自分を置いて先に行ってしまうなんて。裏切り？寂しさ？焦り？

では、問題です。昼食後、ナツが洗面所で牛乳パックを洗っていると、サエがはしゃぎながら「一日じゅう、いいことがある“おまじない”」を教えてくれた。

さて、それは どんな“おまじない”でしょうか。

① 目覚まし時計のアラームが鳴る前に起きることができた。
② 割り箸を割ったら、左右バランスよくきれいに割れた。
③ ゆで卵の白身を、傷つけないできれいにむくことができた。

前号のクイズ、凪良ゆうの「わたしの美しい庭」に登場する神社のご利益は、②の病気、悪癖など断ち切りたいものとの悪縁を切ってくれる「縁切り神社」でした。

「いじめられているわけじゃない。家庭に問題があるわけじゃない。理由なんてないのに、どうしてか生きづらい。そんな気持ちを抱えた中学生の女の子たちが、一筋の光を見つけるまでのお話です。」（筆者：相沢沙呼のコメントより）相沢沙呼は、埼玉県生まれで、「城塚翡翠シリーズ」をはじめ、三中の生徒にも人気のある作家です。問題の本は、分類番号９１３、$\boxed{34}$の棚にあります。本を読んで、問題を解いて、梅雨のうっとうしさを吹き飛ばして すっきりした気分になりましょう！

今年度の新着図書が続々と届く予定です！お楽しみに！！

今回は、夏休み前ということで、タイトルに「夏」が入った本を紹介します。まず、紹介する２冊は、「戦争」や「原子爆弾」がテーマになっている作品です。今年は、終戦から７８年を迎えます。年々、テレビなどで終戦についての特番を扱うことが減り、遠くない将来、日本からは、戦争や原爆を経験した人がいなくなるでしょう。毎日のようにウクライナ情勢が伝えられていますが、現在でも紛争が起こっている国は少なくありません。今、本を通して「戦争」や「原爆」をもっと知り、平和について考えるきっかけになってくれたらと思います。

『モノクロの夏に帰る』 額賀 澪/著 （中央公論新社）

過去の戦争を知り、今、すべきことを考えよう。僕達は他人を想うことができる。……

『時をかける色彩』ー戦時中の写真をカラー化した写真集
この本をめぐっての４つの物語。読後、石垣りんの、「挨拶—原爆の写真によせて」の詩を思い浮かべました。
「それでも、僕達は今、考えないといけない。経験者じゃない。専門家じゃない。何の権力も持ってない。それでも、何かを。自分にできる何かを。そう思う人の勇気を、この本は後押しする。」
私たちの平和を祈る気持ちを後押ししてくれる一冊です。

『ある晴れた夏の朝』 小手鞠るい/著

2019 年度 第 65 回
青少年読書感想文
全国コンクール課題図書

日系人、中国系などルーツの異なるアメリカの高校生８人による、原子爆弾の是非のディベートを描く。
「世界は今も昔も平和ではありません。…日本は決して平和ではない。あなたに（平和だと）思い込ませているものとはなんなのか。その答えを書きました。」
（筆者からメッセージ参照）

『夏休みの空欄探し』 似鳥 鶏/著（ポプラ社）

この数字が表す２桁の数字をつなげた場所に向かった
0305 2224 2224 8082 2224

会員がたった２人だけのクイズ・パズル研究同好会の会長の僕（成田頼伸）。同じ性の、成田清春はクラスの人気者で、僕は「じゃない方」と呼ばれている。そんな僕が、謎解きをしている姉妹と出会い、謎解きを手伝うことに。暗号が示す場所に行くと次の暗号が。
すべてが明かされたとき、切なさと温かさが胸を満たす青春恋愛ミステリー。

『夏に祈りを ただし、無音に限り』 織守きょうや/著

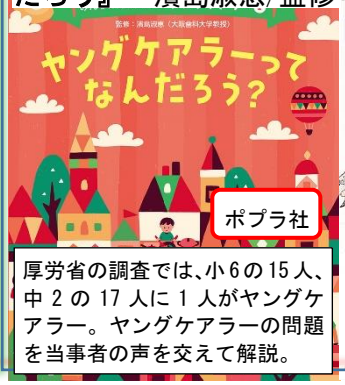
名探偵に憧れて探偵事務所を開いた天野春近。ある夏の日、保育園の園長から、気になる園児のことを調べてほしいとの相談を受ける。春近は、園児との散歩中に、子どもの霊に気づく。その影は、ゆっくり動き、園児の列へ手を伸ばした。その子の周辺で次々に起こる園児の転落事故。いったい子どもの霊は何を訴えているのか。

『夏の体温』 瀬尾まいこ/著 （双葉社）

１ヶ月以上入院が続き、退屈でいらいらが募っていたところに、同学年、９歳の男の子が検査入院でやってきた。楽しい日々にも終わりは来る。２人の小学生男子の友情の物語、表題作の「夏の体温」をはじめ、「魅惑の極悪人ファイル」、「花曇りの向こう（2016 年に発行された中学１年生の国語の教科書に掲載）」を収録した、短編三部作。

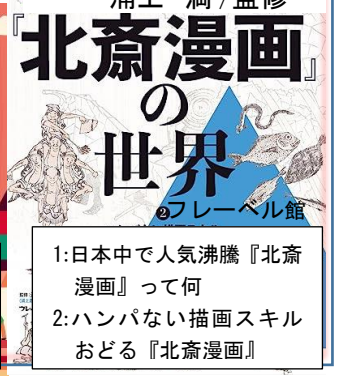
新しい本が届きました！

『みんなに知ってほしい ヤングケアラー１ ヤングケアラーってなんだろう』 濱島淑恵/監修



厚労省の調査では、小6の15人、中２の 17 人に１人がヤングケアラー。ヤングケアラーの問題を当事者の声を交えて解説。

『日本人なら知っておきたい 北斎漫画の世界』 浦上 満/監修



1:日本中で人気沸騰『北斎漫画』って何
2:ハンパない描画スキル おどる『北斎漫画』